

LIVE SCHEDULE

NEW RELEASE

夏の全国ワンマンツアー決定！
TOUR RAINBOW OF SUMMER 2005

6月29日(水) 広島ナミキジャンクション
問：夢番地広島 082-249-3571

7月2日(土) 札幌コニー
問：WESS 011-614-9899

7月4日(月) 仙台HOOK
問：キョードー東北 022-296-8888

7月13日(水) 名古屋アポロシアター
問：ジェイルハウス 052-936-6041

7月15日(金) 大阪・なんばHatch
問：夢番地大阪 06-6341-3525

7月16日(土) 福岡イズムホール
問：サンライズプロモーション西日本 092-716-3939

7月21日(木) 東京・渋谷AX **SOLO OUT**
問：DSK GARAGE 03-5436-9600

6月5日(日) J-WAVE M+LIVE @ZEPPE TOKYO
w/レミオロメン、風味堂
問：DSK GARAGE 03-5436-9600 (平日 12:00-19:00)

6月17日(金) SONG-CRUX祭り @新宿ロフト
w/メレンゲ、倉遊音
OPEN 18:30 / START 19:00
問：WINFAGE ROCK 03-5486-1099 (平日 12:00~17:00)

6月25日(土) JAPAN CIRCUIT -vol.25-
「ROCK IN JAPAN FES. 2005前夜祭」@渋谷AX
w/THE BACK HORN、つばき、ストレイテナー
問：DSK GARAGE 03-5436-9600 (平日 12:00-19:00)

8月6日(土) ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2005
問：ROCK IN JAPAN FESTIVAL 事務局 0180-993-611
(24時間テープ対応、PHSからは不可)

8月19(金)、20(土)
RISING SUN ROCK FESTIVAL 2005 in EZO
出演日未定
問：http://RSR.wess.co.jp

連載/レギュラー

CDでーた 「フジファブリックの学食ぶらり旅」

リンカラン 「フジファブリック金澤ダイスケのフジ食堂」

キーボードマガジン 「フジファブリック金澤ダイスケ「復讐 a go go」
7月号 (5/28発売)より連載スタート

スペースシャワーTV 「熱血！スペシャル中学」(金澤ダイスケ)

AKANEIRO RADIO 「フジファブリックの自主制作ネットラジオ。
不定期更新。期間限定で収録可能です。
www.toshiba-erico.co.jp/capitol/fuji

MORE INFO

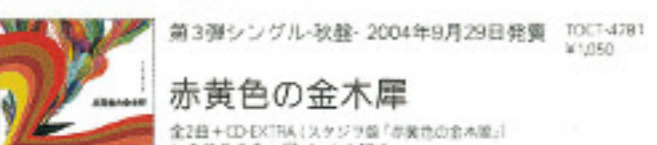
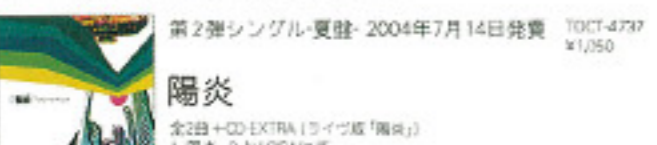
www.fujifabric.com
www.toshiba-erico.co.jp/capitol/fuji

ニューシングル「虹」 6月1日発売!



TOCT-4873 ¥1,050 (税込)
1. 虹 2. ダンス2000

DISCOGRAPHY



■もはや日本語ロックのP S Y C H O〜峰にまで登りつめようとして！
LIVEフジファブリック。不正産で不眠的な自分探しパカ系の音楽が蔓延
する中で、この知性の煩わしさも困却もない、音楽に対する純粋意志に
よってのみ生まれた青臭さゼロの異次元ロックは貴重だ。ニューシ
ングル「虹」(6月1日リリース)は、まさにその結晶。自由奔放なそのグル
〜ペが何よりも純粋に彼らの充実度を物語る。これだよ、君の求めてた
音楽は。でね、オリコンチャート上位タイ込み間違いなし(既出)「虹」
のリリースを記念し、その前祝いということで、今回は中央線に乗った
ことのある人なら必ず目にする市ヶ谷駅そばの釣り堀にて、へたれフ
ィッシングを敢行。このブッチ・インタビューは、その釣りの前後に行わ
れました。松方弘樹ばりに世界をも釣りあげそうな勢いのフジファブリ
ック。彼らの快進撃を草葉の陰から見守りつつ、他では決して語れない
彼らのアホ発言を楽しんでいただけたら手のシワとシワを合わせて幸せ
D E F. かしこ。

——今回は釣りに挑戦ということでいかがでした？
加藤慎一 (G)「最初はイケイケなムードだったんですけど、風が強くな
って寒くなったら落ち込んだじゃいましたね」
山内健一郎 (G)「寒かったよねえ。でも、堅な義務感と言うか、釣らな
あかかってことで、かなりプレッシャーでしたけど(笑)。常連さんって
いうか、プロに助けってもらって、ようやく釣れた感じ」
金澤ダイスケ (Key)「あのプロのおじさん達は普段は何をやってる人な
んだらうね。使ってるエサとかも僕らと全く違ってたし。何か怒られな
がらやってきましたけど(笑)」
——そもそも釣りの経験はあるの？
金澤「子供の頃、釣り堀に行ったことがあります。そこはニジマスだっ
たんですけど、イワシの群れみたいに泳いで、針を落とせば釣れるみ
たいな感じで、それで増殖させて食べたり」
志村正彦 (VocG)「山梨って川に普通にニジマスとかいたから、ミミズ
のエサ買ってきて釣ってましたね。中学生ぐらいまで。高校生ぐらいな
ってからはバス釣りに行ったり」
山内「僕も中学生ぐらいの時にバス釣りはやりましたね。だから、今
日もバス釣りに行くくらいに慣か早を張るみたいなの感じですよ。おっ
ちゃんから「それだガメだ」って怒られて、「すません」ってあやまりな
がらやりました(笑)」
加藤「僕は学校の行事と言うか、遠征学校みたい時しか釣ったことな
く。今日も、まあ適当やれば釣れるだろうと思ったら全く釣れず
(笑)」
足立原文 (Dr)「僕は日本で一番ヤバい川と呼ばれる足立区の川でや
りました(笑)。釣り堀は行った事なくて、いつもそのヤバい川で釣る
たらしてました」

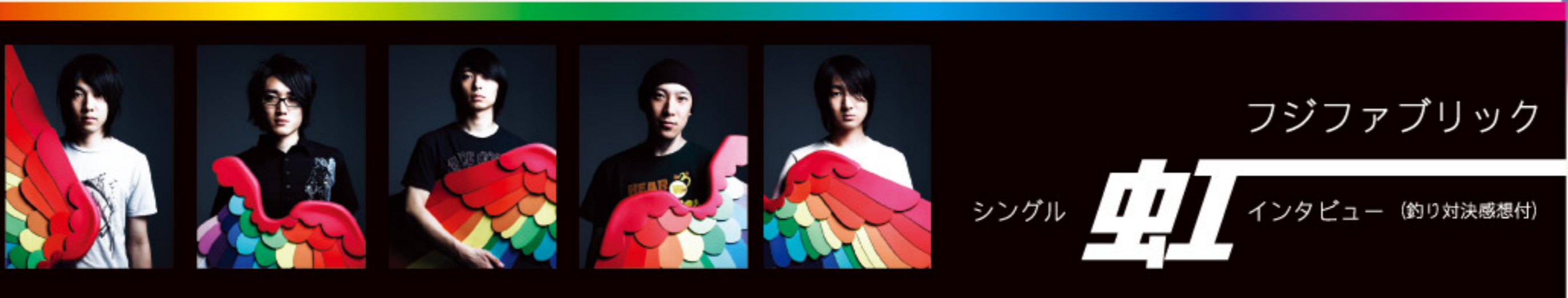
よね。
足立「そうですね。ドラムも叩いてる時は何も考えなくて没頭できると
言うか、肉体だけで叩けると言うか」
金澤「弾いてて気持ちの良い曲ではありませんね。それこそ何も考えず
に楽しんでいる」
志村「今までよりも数は少ないですね。だから没頭できるのかも知
れないけど。今まで新曲を弾きながら、お客さんの反応的にはちゃん
と聴いてくれる感じなんですけど、「虹」は聴いてくれる上にノって
くれる感じがするですよ」
——お客さんの情もココ最近で急に広がってきたって聞いたんだけど。
志村「お母さんみたいな人がいたり、子供連れで来てたりとか。福岡の
志村「釣りのおばちゃん、何ずんじゃコラ〜みたいなの(笑)。投稿
はマズイでしょ」
金澤「でも一回、投稿やってみないかな。カジキとかも釣ってみたいで
すよね。グループとか乗ってやりたいんですけどねえ」
足立「地方弘樹、世界を釣るみたいなの(笑)」
志村「ダイちゃん、カジキがヒットした瞬間、海に引きずり込まれてジ
ェットスキーみたいになって泳がれそうだよ(笑)。佐藤になれるよ」
足立「ダイちゃん、今日のコイでもフワフワしてんだからカジキなんか
絶対無理だよ(笑)」
志村「ダイちゃんは海岸から一本釣りが、海女さんみたいに素潜りで
(笑)」
山内「とったど〜って(笑)」
金澤「でも、今日の釣りは個人的には面白かったですよ。今回はみんな
で決済するのとかも面白そうよね。前にスペースシャワーの番組で行
った花やしきのゴーカートで決済とか。あとは体育祭みたいな感じもイ
イかも」
——全裸運動会みたいな感じの？
志村「全裸はキビシイですね(笑)。まあとりあえずダイちゃんはスー
ブラで参加してもらって(笑)」
——誰が何個スーブラ付けられるか競争とかね(笑)。まあそんなくだら
ん話はおいて、今回の「虹」なんですけど、個人的に「ダンス2000」
が改めて入ったのは嬉しかったなあ。
志村「インディーズ盤にしか入ってなくて、自由体知らない人も増え
てきたんでいいことか、どうやって盛り上げていこうとかいうのが考え
られるようになってきました。だからライブやってみて、動かしな
いけど今がホット楽しい。まだライブ毎にだいたい波があるので、そこは
ちゃんとしていかなきゃとは思います」
——ライブの出来、不出来について言い争いはないの？
志村「喧嘩みたいなのは一度もないですね。ライブもレコーディングの
時も、ライブやる度に終わった後に大げんかして、解散に至ったバンド
はあるみたいですけど、うちはそういうの無いですね」

official HP <http://www.fujifabric.com>



フジファブリックの

第六号



フジファブリック

シングル **虹** インタビュー (釣り対決感想付)

TAKE FREE



時は2004年4月21日、天下一武道会 in 市ヶ谷フィッシュセンターが、めでたく開催されるはこびとなりました。日の丸の小旗を振って出迎える、絶賛サボり中のサラリーマン、ヒマなカップルに見守られ、マエストロ深作欣二ばりのバトルロワイヤルが幕開け。「あんまり自信ないんですけど……」(金澤君)「何匹くらい釣れるのかなぁ」(加藤君)と、各メンバー期待と不安をつのらせつつ、ここぞと思ったマル秘スポットへと移動し、男は黙ってフィッシング・タイム。と、当初はニコニコ顔で各自のゴッド・ハンドを奮わせるフジファブリックだったが……。



恍惚の人状態で、ポケ〜ッと釣り糸を眺める志村君。優雅に読書にいそしみ、大人の余裕を見せる足立君。ウキも見ないで俺としゃべってだけの加藤君。ウキの一挙一動をじっと見ながら、立ったり座ったりのスワット状態でやる気充分の山内君。釣れてる方の池へと魚をサーチ&デストロイし続ける、これまたやる気充分の金澤君。と、すでにこの時点で、その後の仁義なき戦いの命運は予見されていた。「釣った後はどうすればいいんですかねえ?」と、無用な心配の足立君をよそに、まずはマネージャーさんとデザイナーさんの女性陣が魚をゲット!(死語)。



発売記念釣り対決

文:保母大三郎 / 写真:スージー / デザイン:柴宮夏希(nemo graph.)

それを見てあせり始めたフジファブリックの面々は、まるで沈没を予期したネズミのように、釣れる池へと「ゆきゆきて神軍」を繰返し始めるが時すでに遅し。「ヒットはするんですけどねえ」(山内君)と、枝豆並みの脳みそしかない魚にやられっぱなし。開始から1時間が過ぎ、当初は晴天だったものの、雲が立ちこめ、冷たい北風が釣り場の住民を襲う。半袖から長袖へ。と、ここで志村君、足立君、加藤君の3名は、せまりくる寒さにフィッシャー・スープレックスでTKOってな、残念→切腹(W死語)な結果に、もはやコノ企画自体が失敗かと思われたが……。



ダダザベリの3名がストーブのある、釣り場内のプチ・レストハウスに避難しても、なお釣り続ける金澤君と山内君。と、三平ライクな釣り師のおじちゃんによる、スクールウォーズばりの熱血指導のかいあって、2人共1キロオーバーの市ヶ谷のマスを捕獲!「プロに怒られまくりでしただけど、やっと釣れた」(金澤君)「あのおっちゃん、ウキの周りにエサまくの反則だと思んですけど」(山内君)ってな感想を残しつつ、これにて一件落着。映画『ディア・ハンター』さながら、再びハンティングすることを誓い合い、コンクリート・ジャングルへと消えゆく彼らだった。



結局、金澤君と山内君のやる気のあるフジファブリックの2トップが勝利をおさめ、風と共に去りぬ。最初はみんなウキウキなムードだったのに、この虚しさはなんだろう(死語)。モヒカン頭のタクシードライバーが運転する場りの車中にて、フジファブリックのCEO志村君がボソッとつぶやいた。「思ったより、あんま盛り上がりなかったですね……」。ってなわけで今回は「回転寿司で寿司ネタに対してギャグを言わなければ食べられないという(笑)」(加藤君)、「マラソン対決?」(志村君)などのバカ企画もすでにあがっておりますので、皆様お楽しみに。

志村正彦

「虹」の歌詞にちなんで
グライダーに乗ったときに 聴きたい曲

1. 「鳥の人」/ 風の谷のナウシカサントラより
2. 「BOLERO 75」/ JAMES LAST
3. 「COBALT HOUR」/ 荒井由実

1は間違いないです。何度この曲を聴いて空を飛びたいと思ったことか! 何度自分が飛んでいる姿を想像したことか! 実際に想像だけにどまらず、疑似飛行体験をしようとかバイクで両手離して立ち乗りしたんですが思いつきこけて気を失いかけました。あ! 映画の中でナウシカが乗っていたメーヴェっていうグライダーがあるんですが、それを実用化させようとしている人たちがいるらしいですねえ。是非とも頑張ってください。生かして買って、一生かけてローン払いますから。2はなんとなく合いそう。3はこの由大好きなんです。空つーよりやっぱりドライブですよこの曲…まあ、それだけ好きってことで!

金澤ダイスケ

1. 「やさしさに包まれたなら」/ 松任谷由実
2. 「君を乗せて」(天空の城ラピュタ:エンディングテーマ)/ 井上あずみ
3. 「風の谷のナウシカ」/ 安田成美

人間誰しも一度は空を飛びたいと思った事はあるものです。空には風があります。そしてその風を助けて空に舞い上がる事もできます。グライダーはまさに人間の夢であり希望なのです。宮崎監督が描く空の世界、子供の頃から憧れてました。きっと空はあなんだから。

加藤慎一

1. 「CHA-LA-HEAD-CHA-LA」/ ドラゴンボールZ
2. 「虹」/ フジファブリック
3. 「OVER THE TROUBLE」/ 織田裕二

さあ、やってきましたグライダー! まず1で出発です。いきなりトップギアですよ。ぶっ飛ばしていきましょう。さらに高く、そして速く行ってください。そしてきました2、ここで一つアクロバティックにヒコウしてみるのも悪くないのでは? さあ、楽しい空の旅もそろそろ終わりです。エンディングに流れるは3です。無事着陸に成功したならば近くにある自転車に乗って蛇行運転しながら安全に帰宅してください。

山内総一郎

1. 「Just A Smile」/ PILOT
2. 「Simoon」/ YMO
3. 「Ribbon In the Sky」/ Stevie Wonder

まず一曲目はPILOTの「Just A Smile」。ゆったりと浮遊しているときにびったり。絵に書いたような青や緑の自然が目の前に広がるかのよう。続きまして二曲目は、YMOの「Simoon」。ふらふら飛んでいると、行ったことも見たこともない所に来てしまった。去来も落ちかけ、辺りは怪しい異国風に、知らぬ間に外国にきてしまったのだろうか。そして三曲目はStevie Wonderの「Ribbon In the Sky」。雪一つない夜空、遠く海面に映る月。気分は完全にキザ野郎。という感じでしょうか。乗ってみたい。

足立房文

1. 「Fly Me to the Moon」/ Frank Sinatra
2. 「Moonlight Serenade」/ Glenn Miller
3. 「夢を信じて」/ 徳永英明

僕がグライダーに乗って聴きたい曲は、以上の三曲です。一曲目は何かいい雰囲気の良い飛行に合いますね。そもそも、夜間にグライダーで飛行出来るか不詳ですが、二曲目もグライダーって云うか週末のラグジュアリーなフライトに合うですね。ハードヒューズな感じでしょうか。三曲目は冒険の旅に向かう飛行に似合う曲ですね。グライダーより気球とかラミアでしょ? ルーラを覚えるまでの辛抱です。気分はアベルです。